

小国郷医療福祉あんしんネットワーク住民フォーラム
小国あんしん座公演

渡る世間は

鬼ばかり

くじやないよ

くずっと家にいたいばなく

PPK48劇団

入場
無料



在宅医療
教えてもらう
前と後

令和元年
11月30日(土)

開場 13:00 / 開始 13:30
講演時間 約90分

会場 JA阿蘇小国郷中央支所
情報企画センター2階
〒869-2501 熊本県阿蘇郡小国町宮原2300

お問い合わせ 小国郷医療福祉あんしんネットワーク事務局 0967-46-5575
(小国町社会福祉協議会内 担当 有働)

主催：小国郷在宅医療サポートセンター
小国郷医療福祉あんしんネットワーク
共催：阿蘇都市医師会
後援：熊本県阿蘇保健所・阿蘇在宅医療システム研究会・小国町・南小国町

渡る世間は鬼ばかり～じゃないよ
～ずっと家にいたいばな～

【あらすじ】

小国郷出身の岡倉大吉さん夫婦は、先祖が残してくれた田舎の山に終(つい)の住処(すみか)としてポツンと一軒家を建てて帰ってきました。

小国郷で満足した生活を送っていたのですが、大吉さんがつまずいて骨折を起こしました。手術を受けた大吉さんは、まだまだリハビリが必要ですが、家に早く帰りたくてたまりません。

そこで、病院では、大吉さんが、どうしたら退院できるか会議を行いました。自宅に帰った後は、訪問診療や訪問看護などを利用し、自宅での生活を始めました。しかし、徐々に、大吉さんの症状は悪化していきます・・・

現在の小国郷では、どのような体制で在宅(自宅や施設)での看取りのシステムを構築しているのか・・・

みなさんはこのような一生をどう考えられますか？劇の合間には、みなさんの意見や質問を受け付けます。みなさんの考えをお聞かせください。

【はじめに】

人間は「オギャ！」と生まれ出た瞬間から、みんな同じ「死」というゴールを目指して歩んでいきます。たとえ、どんなに老いに抵抗し、健康を維持しようと努めても、死は万人が受け入れざるを得ない宿命なのです。

みなさんも、最後まで自分らしく生きて、そして、最期をむかえたいと望まれているのではないのでしょうか？医療技術の発達によって、命を延ばすさまざまな延命治療法が生まれ、そのことが、逆に本人や家族を悩ませることになっているのではないのでしょうか？だからこそ、多くの人が自分の“最期”の迎え方を真剣に考える時代になりました。

今回は、岡倉大吉さんを通して、人間の最期は、どうあったら良いのかを考えながら、在宅医療について学んでいただければ幸いです。

出演者
スタッフ



加賀孝之
南小国町シルバー人材センター



秋吉典子
春草苑



穴井睦美
小国町社協



坂本英世
公立病院



梅田修二
おぐに整形



片岡恵一郎
公立病院



松田圭史
公立病院



佐藤明日香
公立病院



松原恒子
小国訪問看護ステーション



三笠達哉
公立病院



中島和美
なごみ



岡本茂洋
小国調剤薬局



穴井沙織
公立病院



有働多津美
小国町社協



下城多美子
南小国町社協

脚本・監督：梅田修二／ナレーション：下城三枝(みどりの里)／AD：佐藤ひとみ(小国町社協)

スタッフ：甲斐田英俊(甲斐田歯科)・梶谷真(とらたに歯科)・高野和代(糸)・穴井千恵美(一般)・河津紀子(公立病院)
鎗水清美(みどりの里)・佐藤直美(公立病院)・梶原あゆみ(南小国社協)・佐藤悠(小国町社協)

小国郷在宅医療
サポートセンター

小国郷の在宅医療の質と量を確保する為に、小国郷医療福祉あんしんネットワークは、熊本県から在宅医療サポートセンターの指定を受けています。小国郷に必要な在宅医療の提供体制づくりと支援、医療機関の連携促進、関係専門職の人材育成、住民への普及啓発などの取り組みを進めています。

小国郷医療福祉あんしんネットワークとは？

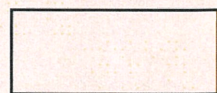
少子高齢化の進む小国郷であんしんして暮らすための、医療・介護・福祉の多職種ネットワークです。認知症カフェ「ひとよこい」の運営や講演会、出前ミニ講座の開催。終活を考えるための「小国郷で生きて逝くノート」の作成。小国郷の事業所を掲載した「小国郷医療・福祉ネットワークハンドブック」の制作など、小国郷の医療福祉のあんしんを目指し、日々活動しています。

小国郷在宅療養のすすめ

あなたもできる

小国郷の

在宅療養



と
当日配布します